

## パートナーとの関わり

パートナーとの  
よりよい関係づくりを通じて、  
環境負荷削減に貢献します。

地球環境保全の視点で見ると、ビジネスの世界での「勝ち組」「負け組」という考え方を改めていく必要があることに気がきます。なぜなら、この考え方は、貧富の差を生み、貧困エリアでは、森林伐採などの自然破壊が進むためです。グローバルに事業を展開するリコーグループは、仕入先様から物流会社様、リサイクル事業者様に至るまで、ビジネスの全てのステージにおけるパートナーを環境経営の視点で啓発・サポートし、パートナーとのよりよい関係をつくることにより、社会全体の環境負荷削減に貢献しています。

### 仕入先様

リコーグループは、グリーン調達\*を通じて、世界の仕入先様を環境経営の視点でサポートしています。さらに、日本のリコーグループでは、購買倫理規定を策定し、国内15カ所の製造拠点の管理職研修を行っているほか、内部監査員が仕入先様に対する下請法遵守の定期監査を行っており、その監査レベルの高さは公正取引委員会、中小企業庁からも評価されています。

\* 45ページを参照。

### 物流会社様

リコーグループの物流を担うリコーロジスティクスは、日本国内の配送・回収業務の約70%を外部の物流会社様に委託しています。そのため、自社だけでなくパートナー企業のドライバーも参加する、安全運転や省エネドライブのための講習を開催したり、主要パートナーの車輛

もGPS(Global Positioning System: 汎地球測位システム)で走行管理するなど、安全で環境負荷の少ない輸送を支援しています。

### リサイクル事業者様

リコーロジスティクスとリコーリサイクル事業部は共同で、1999年から日本国内全10カ所のリサイクルセンターの業務監査を実施してきました。監査は年1回、各リサイクルセンターとその先の工程にあたる二次処理業者様1社を合わせて実施されます。監査項目は、法令を遵守した処理、従業員の作業環境などの安全衛生、騒音などの周辺環境への影響、マニフェストのトレースなど多岐に渡り、リサイクルセンターの業務改善にも役立っています。また環境マネジメントシステムの構築の支援も行い、2002年6月には全てのリサイクルセンターがISO14001の取得を完了しました。

### 特許の積極的開示

省エネ技術などの環境技術をより多くの方々にご利用いただくことは社会貢献につながるという見地から、リコーは、「環境」に関する特許のライセンスを公開する方針をとっています。また、リコーグループの目指す「環境経営」を特許で保護し、より積極的に世の中にアピールするため、

環境経営のビジネスモデル特許\*を出願中です。

\* 桜井社長を発明者として、環境経営の考え方(13ページを参照)とITシステムによる環境会計(25ページを参照)を一体化して、2001年に特許出願しています。

### 株主、投資家の皆様

「エコファンド」や「社会的責任投資」の台頭により、株式市場における企業評価も、利益、環境、社会的責任など、多様な視点が求められていることがわかります。リコーは、日本では東京ほか5市場、アムステルダム、フランクフルト、パリの各証券取引所に上場しており、株主、投資家の皆様とのコミュニケーションを図るために、日本での株主総会の開催をはじめ、日本語版の事業報告書、英語版のアニユアルレポート、環境経営報告書(日本語・英語)の発行などを行っています。リコーは2001年度、「わかりやすい情報開示」を評価する東証の「ディスクロージャー表彰」を受賞しました。また、証券市場の変化とともに、個人投資家の方々とのコミュニケーションの重要性も高まっています。リコーリースは2002年度、東証の「個人株主拡大表彰」を受賞しました。

リコーの株価および株式売買高推移

